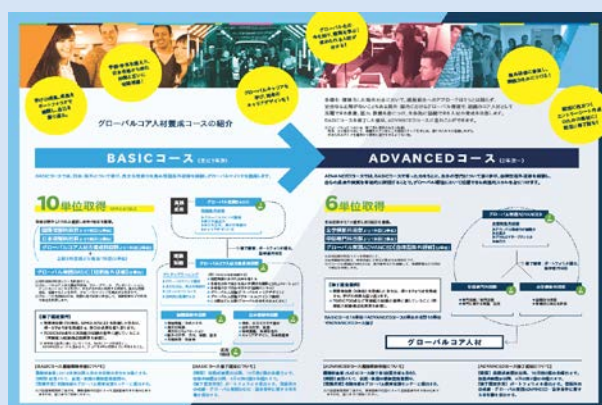


# 平成29事業年度に係る業務実績の概要

## 1. 教育

- 全学横断特別教育プログラムの展開
  - ・教養科目を中心としたBasicコースと専門科目も含めたAdvancedコースの2段階から成る「グローバルコア人材養成コース」を平成30年度から開講することを決定
  - ・平成29年度に「ローカル・イノベーター養成コース」を新設（希望者18名全員が2年次以降のカリキュラム受講へ移行）
- 学修支援ニーズに応じたピア・サポート体制の整備
  - ・松本キャンパス以外の学部（教育学部・工学部・農学部・繊維学部）の1年生に学修支援のニーズが強いことを踏まえ「中央図書館ラーニング・アドバイザー」制度を平成30年度より「ピアサポ@Lib」として再編・拡充し、ラーニング支援部門とライティング支援部門の2部門体制とすることを決定
- 「信州大学知の森基金」による経済支援
  - ・入学時に必要となる学資の一部を支援する「入学サポート奨学金」について、申請資格を緩和、支援者数、支援金額ともに増加（支援者数：4名→14名、支援金額：160万円→560万円）



グローバルコア人材養成コースの開講決定



ローカル・イノベーター養成コースの実施

This is an advertisement for the 'Shizuoka University Knowledge Forest Fund' (信州大学知の森基金) 'Entry Support Scholarship' (入学サポート奨学金). It features a green and white color scheme with images of students. The text highlights that the scholarship is available for students entering in April of the next year. It lists the amount as 400,000 yen and the number of recipients as 25 students. The application deadline is November 15th.

This is another advertisement for the 'Shizuoka University Knowledge Forest Fund' (信州大学知の森基金) 'Entry Support Scholarship' (入学サポート奨学金). It features a green and white color scheme with images of students. The text highlights that the scholarship is available for students entering in April of the next year. It lists the amount as 400,000 yen and the number of recipients as 25 students. The application deadline is November 15th.

「信州大学知の森基金」による経済支援

## 2. 研究

- 次代研究プロジェクト支援（URAファンド）
  - ・昨年度から引き続き、URAの推薦した研究プロジェクト6件に対して総額約500万円の研究費を支援
  - ・昨年度に支援を受けた6研究課題のうち、5課題が今年度科研費に採択
  - ・今年度に支援を受けた研究者の関連研究課題3件が、JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）の事業等に採択
- 「外部資金獲得手当」の新設
  - ・外部資金に措置される間接経費等の獲得により財務上の貢献が特に顕著な教職員に対して、獲得額に応じた手当を支給する「外部資金獲得手当」を新設
- 研究の質の向上
  - ・「アジアで最もイノベティブな大学ランキング」で44位（前回に引き続き国内14位）にランクイン

- Rising Star教員の早期昇進
  - ・顕著な業績を上げたRising Star教員1名が平成29年4月1日付での早期教授昇進、また教員1名の平成30年4月1日付での教授昇進を決定
  - ・Rising Star教員として平成29年4月1日付で新たに1名を認定し、平成30年4月1日付で3名を認定することを決定



平成30年4月に認定されたRising Star教員（左側2番目から下里准教授、鈴木准教授、山崎准教授）

- 特定雇用教員（URA）の位置付けの明確化
  - ・リサーチ・アドミニストレーター（URA）の職位として、教授（URA）、准教授（URA）及び助教（URA）の平成30年4月1日付での新設を決定

- 「オープンベンチャー・イノベーションセンター」（OVIC）の竣工
  - ・地域の研究開発成果事業化、雇用創出及び地域経済活性化を目指す活動の拠点となる、事業の拠点となる施設として「オープンベンチャー・イノベーションセンター」（OVIC）が平成30年3月に繊維学部キャンパス内に竣工



オープンベンチャー・イノベーションセンター（OVIC）

- 先鋭領域融合研究群による大型研究プロジェクトの推進
  - ・文部科学省の平成29年度「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に長野県と共同で申請した「革新的無機結晶材料技術の産業実装による信州型地域イノベーション・エコシステム」が採択
  - ・JSTの産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)に「生理学的データ統合システムの構築による生体埋込型・装着型デバイス開発基盤の創出」が採択



大型研究プロジェクトの推進

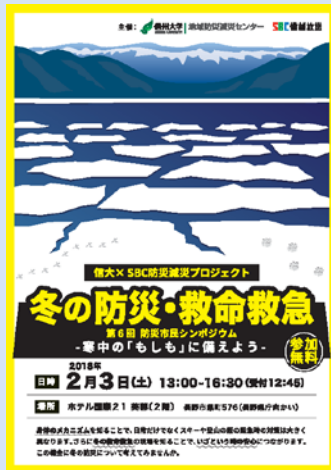
### 3. 社会貢献

- 「信州アカデミア」事業の推進
  - ・昨年度までの3つのコース（「中山間地域」「芸術文化」「環境共生」）を統合して平成29年度より開講した第4期「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」において、高校生2名を含む23名の修了生を輩出
  - ・地（知）の拠点整備事業（COC）「信州アカデミア」外部評価及び地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）中間評価において、S評価を獲得



第4期「地域戦略プロフェッショナル・ゼミ」の実施

- 「信州リビング・ラボ」事業の推進
  - ・「リビング=日常・生活の場」を利用して、市民のニーズを汲み取りながら、産学官民が協働して、課題解決を目指す「信州リビング・ラボ」事業を推進
  - ・平成29年度は長野県の特徴・課題とされている健康長寿・防災減災を重点分野として取り組み、防災市民シンポジウム開催等の活動を実施



- 高レベルの地域貢献活動
  - ・日本経済新聞社発行『日経グローバル』の「大学の地域貢献度ランキング2017」において総合2位を獲得

「信州リビング・ラボ」事業の推進

## 4. グローバル化

- 国際共同研究の実施
  - ・プトラ大学（マレーシア）及びリール第一大学（フランス）に開設されたサテライトオフィスを活用した国際共同教育・研究プロジェクトスタートアップ支援事業を開始
- 学生の海外派遣数増
  - ・平成28年度358名→平成29年度424名



大学のサテライトオフィス（プトラ大学，リール第一大学）の設置

## 5. 附属病院

- 「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」の展開
  - ・第2期生として病院や訪問看護ステーション等の勤務者52名を受け入れ
  - ・支援リーダーに必要な指導力について大学院レベルの学習を通して学ぶ「学習プログラム」，一般的な在宅療養支援及び「がん」「難病」「重症児」在宅の3領域に対応できる実践力を修得する「演習プログラム」を展開
- 包括先進医療棟の運用開始に伴う人員配置
  - ・平成30年4月から稼働する包括先進医療棟の運用体制の整備に伴い，計61名の増員を決定



「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」の展開



平成30年4月から稼働した包括先進医療棟

## 6. 附属学校

- ラウンドテーブルの改善
  - ・昨年度実施したラウンドテーブルで得られた知見をもとに，参加者の悩みや意見を引き出しながら議論の進行を行うファシリテーターの役割を模擬練習により強化
  - ・多方面な視点で教育を見つめ直す機会とするため，新たに異業種を交えて協議

### 【ラウンドテーブル】

小グループでお互いの実践をじっくり語り，聴き合うことで，教師としての歩みを振り返り，さらに探求しあえる仲間の輪を拓けます。



附属学校のラウンドテーブルによる研究会の実施

## 7. 業務運営等

- 経営企画能力を高める研修の実施
  - ・「新任管理職研修」を新たに開催し，部課長級職員等39名が参加
  - ・平成28年10月に策定した「教員人材育成プラン」を踏まえ，学部長補佐以上の教員を対象に経営企画能力を高めるための研修を実施
- 高度専門職の承継職員化
  - ・高度専門職の位置付けやあり方についての平成28年度の検討・決定を受け，各キャンパスに配置しているカウンセラーを承継職員化

担当講師	研修内容	参加者
理事（経営企画，財務，情報担当）	大学改革，財務戦略，IR等について	90名
理事（教務，学生，入学試験担当）	教育，学生支援，入試等について	84名
理事（研究，産学官・社会連携担当）	研究，産学官連携等について	72名

教員を対象とした経営企画能力を高めるための研修の概要

○大学院博士課程の再編

- ・社会的要請が強い分野への博士人材の輩出、多くの分野が複雑に絡み合う社会的課題に対し最適な解決を図る人材の育成を目指す「総合医理工学研究科」の平成30年度設置が、文部科学省の大学設置・学校法人審議会において承認
- ・同研究科は、医学系専攻（3年制、4年制）・総合理工学専攻（3年制）に加え、修士課程の学年進行に伴う生命医工学専攻（3年制、4年制）で構成

○寄附金獲得に向けた取組

- ・入学式・卒業式に合わせて寄附者に記念品をプレゼントするキャンペーンを新規に実施した結果、保護者からの寄付金が前年度より増加（約22万円→約90万円）
- ・平成29年5月に地域の企業をよく知る自治体OBをファンドレイザーとして採用し、法人からの寄付金が前年度より600万円増加

○「入試情報ポータルWEBサイト」の運用開始

- ・複数箇所に分散して掲載していた入試に関する情報を一つに集約し「入試情報ポータルWEBサイト」として平成29年4月に運用を開始
- ・閲覧回数は、旧来の入試関係ページの前年度分と比較し25%以上上回る1,474,331回をカウント

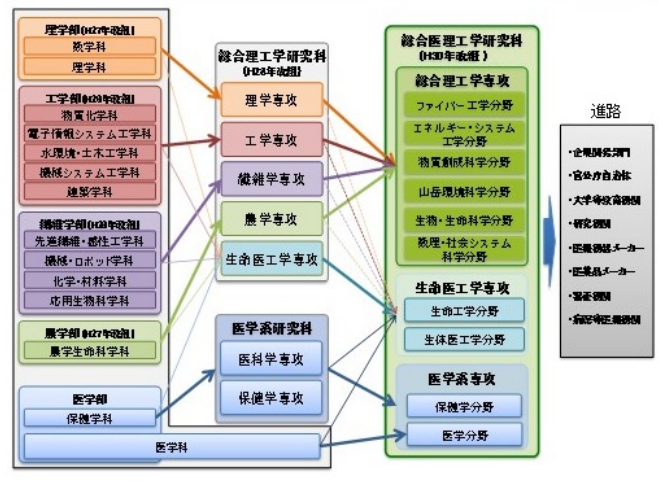
○大学史資料センターの設置及び活動

- ・図書館の情報発信の一環として本学の歴史資料の体系的収集・整理・保存を目的として平成29年4月に大学史資料センターを設置
- ・各学部の同窓会を通じて卒業生に歴史資料提供を依頼した結果、1,393点を収集
- ・平成30年2月から3月にかけて、第1回企画展「信州大学今昔（いまむかし）」を開催

○IR実施体制等の整備

- ・平成29年4月1日付でIR室を設置
- ・IR室各チーム（①教務チーム、②研究、産学官・社会連携チーム、③点検・評価チーム）において、学内情報の収集及び活用等を開始
- ・IR室に対する学内からの調査分析等依頼に関し、取り扱う内容や依頼書様式等のルールを定め、学内に周知
- ・依頼に基づき、本学の研究業績の状況等、本法人の意思決定を支援する調査分析を3件実施

教育課程 ～学士・修士・博士課程の接続と進路～



大学院総合医理工学研究科の教育課程の開始



入試情報ポータルWEBサイト



大学史資料センターの企画展



IR室体制図